

平成25年度 財務書類（普通会計）  
（総務省方式改訂モデル）

平成26年12月  
遠軽町総務部財政課

# 目次

## 1 平成25年度 財務書類の解説

(1) はじめに	-----	1
(2) 貸借対照表	-----	3
(3) 行政コスト計算書	-----	6
(4) 純資産変動計算書	-----	8
(5) 資金収支計算書	-----	10

## 2 財務書類を活用した財務状況の分析

(1) 財務書類を活用した分析	-----	11
(2) 比率等を用いた分析	-----	12
(3) 町民1人当たりの状況	-----	13

# 1 平成25年度 財務書類の解説

## (1) はじめに

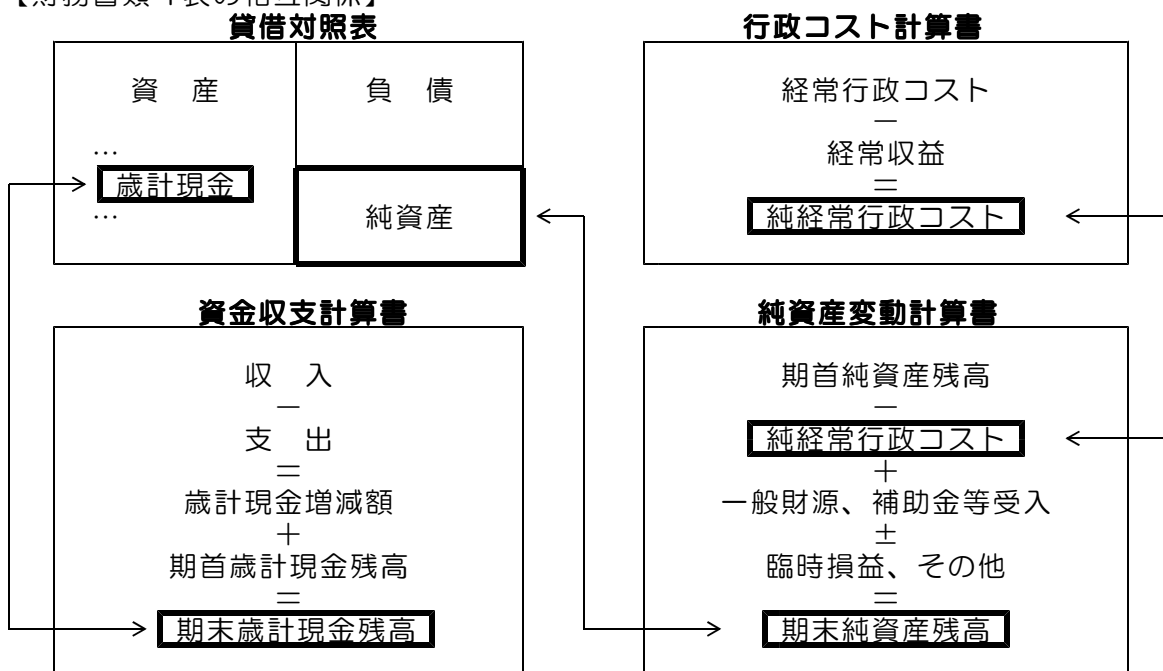
- 公会計の整備については、平成18年に国が示した「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」において、国の作成基準に準拠し、4つの財務書類（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）の作成及び公表が地方公共団体に求められたところです。
- 財務書類の作成方式については、総務省から2つの方式（総務省方式改訂モデル、基準モデル）が示されており、地方公共団体はこれらのモデルを活用して、財務書類の作成を進めることとされています。

### 【両モデルの比較】

区 分	総務省方式改訂モデル	基準モデル
内 容	現金会計の決算（決算統計）を組み替えて作成する方式	1件1件の歳入・歳出等について複式簿記の仕訳を変換して作成する方式
特 徴	発生主義による取引情報を個々の複式簿記によらず既存の決算統計を活用して作成	すべての資産を公正価値により評価し、個々の取引情報を発生主義により複式記帳して作成
利 点	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの地方公共団体が導入を予定しており、同じレベルでの比較が可能</li> <li>比較的簡便に財務書類作成が可能</li> <li>システムの導入が不要で、費用負担が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財務書類としての精度が高い</li> <li>早期の作成、公表が可能</li> </ul>
問題点	<ul style="list-style-type: none"> <li>公有財産等の貸借対照表計上額に精緻さを欠く</li> <li>多様な事業別財務書類の作成が困難であり事業ごとの分析に不向き</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資産評価に労力を費やす</li> <li>仕訳の点検・照合作業が必要</li> <li>新たなシステム導入による初期投資が必要</li> </ul>

- 遠軽町においては、今まで「現行総務省方式」を用いての「バランスシート」を公表してきましたが、他の地方公共団体の多くが導入している「総務省方式改訂モデル」を用いて財務書類を平成21年度決算から作成し、公表しています。

### 【財務書類4表の相互関係】



## (2) 貸借対照表

### ① 貸借対照表とは

- 複式簿記で経理される企業などで用いられます。これまで社会資本として整備されてきた資産（財産）と負債（借金）をどれだけ抱えているかを示すもので、バランスシートといわれています。

### ② 貸借対照表の構成

- 貸借対照表は、下図のように左側が資産、右側が負債と純資産から構成されています。

借 方		貸 方	
資 産	・ 町がこれまで整備してきた建物、備品、現金や預貯金などの財産	負 債	・ 将来にわたって返済しなければいけない借金や職員などの退職金などの債務
		純資産	・ 資産と負債の差額で、資産形成の財源として、現在まで世代が負担したもの

### ③ 科目の説明

- 貸借対照表に表示される科目の説明は、次のとおりです。

区 分		内 容
資 産	公共資産	
	有形固定資産	・ 町がこれまで整備してきた建物などの財産
	売却可能資産	・ 未利用財産等の売却が可能な財産
	投資等	
	投資及び出資金	・ 第三セクターなどの団体に対する出資金、出えん金
	貸付金	・ 農業改良資金などに対する貸付金で、返済期限が未到来のもの
	基金等	・ 特定目的のための資金や定額資金の運用するための資金
	長期延滞債権	・ 町税や使用料などの未収入額のうち、1年以上未収となっているもの
	回収不能見込額	・ 町税などの長期延滞債権のうち、回収不能となることが見込まれるもの
	流動資産	
現金預金	・ 現金や流動性の高い基金（財政調整基金、減債基金）	
未収金	・ 町税や使用料などの未収入額のうち、1年以内に未収となっているもの	
負 債	固定負債	
	地方債	・ 町債（借金）残高のうち、翌々年度以降に返済予定のもの
	長期未払金	・ 将来への債務の負担を約束したもので物件の購入やサービスの提供を受けたもののうち、翌々年度以降に支出予定のもの
	退職手当引当金	・ 全職員が年度末時点で退職したと仮定した場合に必要な退職金
	損失補償等引当金	・ 団体などの損失補償債務を約束したもののうち履行額が確定していないもの
	流動負債	
	翌年度償還予定地方債	・ 町債（借金）残高のうち、翌年度に返済予定のもの
	短期借入金	・ 収支不足が発生した場合、翌年度予算からの前借りした金額
	未払金	・ 将来への債務の負担を約束したもので物件の購入やサービスの提供を受けたもののうち、翌年度に支出予定のもの
	翌年度支払予定退職手当 賞与引当金	・ 職員に支払う退職手当のうち、翌年度に支払う予定のもの ・ 翌年度に支払う期末・勤勉手当のうち当該年度に発生しているもの
純 資 産	公共資産等整備国県補助金等	・ 公共資産等を取得した財源のうち、国や道から補助金を受けた部分
	公共資産等整備一般財源等	・ 公共資産等を取得した財源のうち、国や道からの補助金や町債以外の部分
	その他一般財源等	・ 公共資産等以外の資産から公共資産等整備以外の負債を差し引いた額
	資産評価差額	・ 資産の時価評価による差額による差額など
注 記	他団体等形成資産	・ 町の補助金などにより団体等において整備された資産
	債務負担行為情報	・ 将来にわたる債務を約束したもののうち、貸借対照表に計上されないもの
	将来負担情報	・ 財政健全化法の将来負担比率の算定の根拠となったもの

## ④ 貸借対照表の内容

### 平成25年度遠軽町普通会計貸借対照表

(平成26年3月31日現在)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
<b>[資産の部]</b>		<b>[負債の部]</b>	
1 公共資産		1 固定負債	
(1) 有形固定資産		(1) 地方債	18,144,421
①生活インフラ・国土保全	28,092,581	(2) 長期未払金	
②教育	17,093,845	①物件の購入等	0
③福祉	1,851,749	②債務保証又は損失補償	0
④環境衛生	3,420,918	③その他	0
⑤産業振興	5,549,706	長期未払金計	0
⑥消防	55,381	(3) 退職手当引当金	2,876,724
⑦総務	5,678,294	(4) 損失補償等引当金	43,650
有形固定資産合計	61,742,474	固定負債合計	21,064,795
(2) 売却可能資産	56,835		
公共資産合計	61,799,309		
2 投資等		2 流動負債	
(1) 投資及び出資金		(1) 翌年度償還予定地方債	2,007,396
①投資及び出資金	675,108	(2) 短期借入金(翌年度繰上充用金)	0
②投資損失引当金	△ 95,010	(3) 未払金	5,616
投資及び出資金計	580,098	(4) 翌年度支払予定退職手当	0
(2) 貸付金	58,813	(5) 賞与引当金	118,181
(3) 基金等		流動負債合計	2,131,193
①退職手当目的基金	0		
②その他特定目的基金	4,448,399	<b>負債合計</b>	<b>23,195,988</b>
③土地開発基金	68,622		
④その他定額運用基金	239,058	<b>[純資産の部]</b>	
⑤退職手当組合積立金	0	1 公共資産等整備国県補助金等	13,995,294
基金等計	4,756,079	2 公共資産等整備一般財源等	42,432,694
(4) 長期延滞債権	189,974	3 その他一般財源等	△ 7,538,307
(5) 回収不能見込額	△ 32,064	4 資産評価差額	△ 1,334
投資等合計	5,552,900	<b>純資産合計</b>	<b>48,888,347</b>
3 流動資産			
(1) 現金預金		<b>負債・純資産合計</b>	<b>72,084,335</b>
①財政調整基金	2,432,602		
②減債基金	1,999,664		
③歳計現金	263,544		
現金預金計	4,695,810		
(2) 未収金			
①地方税	38,665		
②その他	4,766		
③回収不能見込額	△ 7,115		
未収金計	36,316		
流動資産合計	4,732,126		
<b>資産合計</b>	<b>72,084,335</b>		

※1 他団体及び民間への支出金により形成された資産

①生活インフラ・国土保全	1,544,052 千円
②教育	215,405 千円
③福祉	1,091,457 千円
④環境衛生	3,143,195 千円
⑤産業振興	3,868,982 千円
⑥消防	2,977 千円
⑦総務	592,685 千円
計	10,458,753 千円

上の支出金に充当された財源

①国県補助金等	2,451,186 千円
②地方債	1,736,661 千円
③一般財源等	6,270,906 千円
計	10,458,753 千円

※2 債務負担行為に関する情報

①物件の購入等	0 千円
②債務保証又は損失補償	0 千円
(うち共同発行地方債に係るもの)	0 千円)
③その他	567,503 千円

※3 地方債残高(翌年度償還予定額を含む)のうち14,073,658千円については、償還時に地方交付税の算定の基礎に含まれることが見込まれているものです。

※4 普通会計の将来負担に関する情報

項目	金額	[内訳]	
		負債計上 [(翌年度償還予定)地方債・(長期)未払金・引当金]	注記 [契約債務・偶発債務]
普通会計の将来負担額	28,656,106 千円		
[内訳] 普通会計地方債残高	20,215,250 千円	20,215,250 千円	
債務負担行為支出予定額	280,032 千円	5616 千円	274,416 千円
公営事業地方債負担見込額	4,944,324 千円		4,944,324 千円
一部事務組合等地方債負担見込額	296,126 千円		296,126 千円
退職手当負担見込額	2,876,724 千円	2,876,724 千円	
第三セクター等債務負担見込額	43,650 千円	43,650 千円	0 千円
連結実質赤字額	0 千円		0 千円
一部事務組合等実質赤字負担額	0 千円		0 千円
基金等将来負担軽減資産	26,406,268 千円		
[内訳] 地方債償還額等充当基金残高	7,114,048 千円		
地方債償還額等充当歳入見込額	1,907,710 千円		
地方債償還額等充当交付税見込額	17,384,510 千円		
(差引)普通会計が将来負担すべき実質的な負債	2,249,838 千円		

※5 有形固定資産のうち、土地は5,654,996千円です。また、有形固定資産の減価償却累計額は67,301,757千円です。

### ⑤ 貸借対照表の作成方針

- 平成25年度の貸借対照表は、以下の方針に基づいて作成しています。

区 分	内 容			
対 象 範 囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>普通会計</li> </ul>			
対 象 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度（基準日：平成26年3月31日） （ただし、出納整理期間（平成26年4月1日～5月31日）の収入支出を含めています。）</li> </ul>			
有形固定資産の計上方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>資産の取得に要した実際の経費（取得原価）を基礎として算定。 （取得原価は昭和44年度以降の決算統計の普通建設事業費の累計額により算出）</li> </ul>			
減価償却の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地以外の有形固定資産は残存価格ゼロの定額法で、事業費支出の翌年度から開始。</li> <li>耐用年数の主なものは、次のとおりです。</li> </ul>			
	区 分	耐用年数	区 分	耐用年数
	農業農村整備（産業振興）	20年	河川（生活 Infrastruktur・国土保全）	49年
	道路（生活 Infrastruktur・国土保全）	48年	街路（生活 Infrastruktur・国土保全）	48年
	橋りょう（生活 Infrastruktur・国土保全）	60年	公園（生活 Infrastruktur・国土保全）	40年
売却可能資産の範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年8月策定、「遠軽町未利用財産等の処分計画」において処分を想定した未利用財産を売却可能資産としています。</li> </ul>			
売却可能価額の算定方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地：遠軽町未利用財産等の処分計画において算定した売却予定価格としています。</li> <li>建物：遠軽町未利用財産等の処分計画において算定の基礎を定額法により減価償却し算定しています。</li> </ul>			
回収不能見込額の計上方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>回収不能見込額＝収入未済額×不納欠損実績率 不納欠損実績率＝過去5年間の不納欠損額累計（A）÷（滞納繰越収入額累計＋（A））</li> </ul>			

### (3) 行政コスト計算書

#### ① 行政コスト計算書とは

- 4月1日から翌年3月31日までの1年間の行政活動のうち、資産形成に結びつかない行政サービスに係る経費と、その行政サービスの直接の対価として得られた財源を対比させた表です。

#### ② 行政コスト計算書の構成

- 行政コスト計算書は、経常行政コストと経常収益からなり、これらを差し引いたものが純経常行政コストとなります。  
また、行政コスト計算書は、性質別行政コストを「行」、目的別行政コストを「列」とした表形式で表示されます。

区分	目的別行政コスト								
	生活 1万円	教育	福祉	環境 衛生	産業 振興	消防	総務	議会	その他
人にかかる コスト									
物にかかる コスト									
移転支出的な コスト									
その他の コスト									
【経常収益】									
使用料 手数料									
分担金・負 担金・寄附金									
【純経常行政コスト】									
経常行政コスト									
経常収益									

性質別  
行政  
コスト

#### ③ 科目の説明

- 行政コスト計算書に表示される科目の説明は、次のとおりです。

区分	内容	
人にかかる コスト	人件費	・ 給料、報酬、手当等から退職手当負担金、普通建設事業費に計上した事業費支弁分、平成24年度賞与引当金を除いた金額
	退職手当引当金繰入等	・ 平成25年度に引当金として新たに繰り入れた額など
	賞与引当金繰入額	・ 平成26年度支給予定の期末・勤勉手当のうち、平成25年度の発生分
物にかかる コスト	物件費	・ 施設などの維持管理費など
	維持補修費	・ 施設などの維持補修のために支出した経費
	減価償却費	・ 貸借対照表における有形固定資産の平成25年度減価償却額
移転支出的な コスト	社会保障給付	・ 社会福祉法などに基づく扶助等のために支出された経費
	補助金等	・ 各種団体などに対する助成など
	他会計等への支出額	・ 公共下水道事業会計などへの繰出金
その他の コスト	公共資産等整備補助金等	・ 団体等において整備された資産整備に対して交付した補助金など
	支払利息	・ 町債及び一時借入金の利子支払額
	回収不能見込計上額	・ 平成25年度に回収不能見込額として新たに計上した額など
経常収益	その他行政コスト	・ 上記以外の資産形成に結びつかない行政サービスに係る経費
	使用料・手数料	・ 平成25年度に収入となった使用料・手数料など
純経常行政コスト	分担金・負担金・寄附金	・ 平成25年度に収入となった分担金・負担金・寄附金など
		・ サービスに係る経費支出から使用料などでまかなわれた分を差し引いた額

④ 行政コスト計算書の内容

平成25年度遠軽町普通会計行政コスト計算書

〔 自 平成25年4月1日  
至 平成26年3月31日 〕

【経常行政コスト】

(単位：千円)

	総額	(構成比率)	生活(インフラ・国土保全)	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	議会	支払利息	回収不能見込計上額	その他
1													
(1)人件費	1,994,248	16.2%	204,089	395,944	383,647	124,763	215,365	3	570,081	100,356			0
(2)退職手当引当金繰入等	201,043	1.6%	20,574	39,916	38,676	12,578	21,711	0	57,471	10,117			0
(3)賞与引当金繰入額	118,181	1.0%	12,150	21,165	19,851	7,273	13,649	0	37,187	6,906			0
小計	2,313,472	18.8%	236,813	457,025	442,174	144,614	250,725	3	664,739	117,379			0
(1)物件費	2,177,002	17.7%	285,818	547,478	259,596	480,729	306,577	1,881	289,916	4,950			57
(2)維持補修費	97,972	0.8%	27,215	28,711	7,018	7,263	12,742	55	14,907	61			
(3)減価償却費	2,906,192	23.6%	963,917	591,725	181,209	271,496	478,752	1,033	418,060	0			
小計	5,181,166	42.0%	1,276,950	1,167,914	447,823	759,488	798,071	2,969	722,883	5,011	0		57
(1)社会保険給付	931,114	7.5%		18,209	902,223	10,682							
(2)補助金等	1,507,172	12.2%	3,766	100,068	93,670	303,451	203,280	705,604	96,207	1,126			0
(3)他会計等への支出額	1,418,821	11.5%	583,070	0	815,216	10,535	0	0	0	0			0
(4)他団体への 公共資産整備補助金等	702,689	5.7%	58,292	29,143	338,065	157,399	77,634	0	42,156	0			0
小計	4,559,796	37.0%	655,128	147,420	2,149,174	482,067	280,914	705,604	138,363	1,126			0
(1)支払利息	277,403	2.2%								277,403			
(2)回収不能見込計上額	1,070	0.0%									1,070		
(3)その他行政コスト	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0			0
小計	278,473	2.3%	0	0	0	0	0	0	0	277,403	1,070		0
経常行政コスト a	12,332,907		2,168,891	1,772,359	3,039,171	1,386,169	1,329,710	708,576	1,525,985	123,516	277,403	1,070	57
(構成比率)			17.6%	14.4%	24.6%	11.2%	10.8%	5.7%	12.4%	1.0%	2.3%	0.0%	0.0%
【経常収益】													
1 使用料・手数料 b	490,289		47,899	10,216	68,144	146,219	61,484	0	16,244	0	0		0
2 分担金・負担金・香附金 c	151,197		0	22,180	28,423	59,964	20,400	1,500	18,730	0	0		0
経常収益合計 d	641,486		47,899	32,396	96,567	206,183	81,884	1,500	34,974	0	0		0
(d/a)	5.2%		2.2%	1.8%	3.2%	14.9%	6.2%	0.2%	2.3%	0.0%	0.0%		0.0%
(差引)純経常行政コスト d	11,691,421		2,120,992	1,739,963	2,942,604	1,179,986	1,247,826	707,076	1,491,011	123,516	277,403	1,070	57
													△ 140,083



#### (4) 純資産変動計算書

##### ① 純資産変動計算書とは

- 貸借対照表の純資産の部に計上されている各科目の変動状況を明示する表です。

##### ② 純資産変動計算書の構成

- 純資産変動計算書の構成は、次のようになっています。

H24 貸借対照表

資 産	負 債
	純資産

区 分	純資産 合 計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高					
純経常行政コスト					
一般財源					
補助金等受入					
臨時損益					
科目振替					
その他					
期末純資産残高					

H25 貸借対照表

資 産	負 債
	純資産

##### ③ 科目の説明

- 純資産変動計算書に表示される科目の説明は、次のとおりです。

区 分	内 容
純経常行政コスト	・ 行政コスト計算書における経常行政コストから経常収支を差し引いた金額
一般財源	
地方税	・ 町民税、固定資産税など
地方交付税	・ 普通交付税、特別交付税
その他行政コスト充当財源	・ 地方譲与税、交通安全対策特別交付金など
補助金等受入	・ 公共資産等整備のための国県補助金
臨時損益	
災害復旧事業費	・ 災害によって被害を受けた施設等を原形に復旧するための経費
公共資産等除売却損益	・ 公共資産の売却等に伴う公共資産計上額と売却額との差額
投資損失	・ 貸借対照表における投資損失引当金の前年度からの増減額
科目振替	・ 純資産を構成する科目相互間での変動を明示するための項目
公共資産整備財源投入	・ 貸借対照表における公共資産を整備したことによる財源の変動
公共資産処分財源増	・ 貸借対照表における公共資産を除去・売却したことによる財源の変動
貸付金等財源投入	・ 貸借対照表における貸付金等に支出したことによる財源の変動
貸付金回収等財源増	・ 貸借対照表における貸付金等を回収したことによる財源の変動
減価償却財源増	・ 減価償却による公共資産等整備財源からその他一般財源等への振り替え
地方債償還財源振替	・ 償還によるその他一般財源等から公共資産等整備一般財源への振り替え
資産評価替えによる変動額	・ 資産の評価替えや貸借対照表に新たに資産計上したことによる変動額
無償受贈資産受入	・ 無償で資産を受贈した場合の貸借対照表における有形固定資産計上額

# 平成25年度遠軽町普通会計純資産変動計算書

〔 自 平成25年4月 1 日  
至 平成26年3月31日 〕

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	47,343,098	13,946,073	42,299,971	△ 8,900,685	△ 2,261	
純経常行政コスト	△ 11,691,421			△ 11,691,421		
一般財源						
地方税	2,111,473				2,111,473	
地方交付税	8,280,927				8,280,927	
その他行政コスト充当財源	731,577				731,577	
補助金等受入	1,927,226	740,087			1,187,139	
臨時損益	0					
災害復旧事業費	△ 13,998				△ 13,998	
公共資産除売却損益	0				0	
投資損失	△ 95,010				△ 95,010	
科目振替						
公共資産整備への財源投入			801,010	△ 801,010		
公共資産処分による財源増			0	0		
貸付金・出資金等への財源投入			563,733	△ 563,733		
貸付金・出資金等の回収等による財源増			△ 58,969	58,969		
減価償却による財源増		△ 690,866	△ 2,611,255	3,302,121		
地方債償還に伴う財源振替			1,135,566	△ 1,135,566		
資産評価替えによる変動額	927					927
無償受贈資産受入	0					
その他	293,548		302,638	△ 9,090		
期末純資産残高	48,888,347	13,995,294	42,432,694	△ 7,538,307	△ 1,334	

## (5) 資金収支計算書

### ① 資金収支計算書とは

- 町資金（歳計現金）の入出状況をその性質に応じて、3つの区分（経常的収支の部、公共資産整備収支の部、投資・財務的収支の部）に分けて表示する表です。

### ② 資金収支計算書の構成

- 資金収支計算書の構成は、次のようになっています。

1 経常的収支の部
経常的支出
経常的収入
経常的収支

2 公共資産整備収支の部
公共資産整備支出
公共資産整備収入
公共資産整備収支

3 投資・財務的収支の部
投資・財務的支出
投資・財務的収入
投資・財務的収支

当年度歳計現金増減額
期首歳計現金残高
期末歳計現金残高

### ③ 科目の説明

- 資金収支計算書に表示される科目の説明は、次のとおりです。

区 分	内 容
経常的収支の部	<ul style="list-style-type: none"> <li>町の経常的な行政活動に係る資金収支</li> </ul>
公共資産整備収支の部	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金等を含めた公共資産整備に伴う支出、それに対応する財源（収入）</li> </ul>
投資・財務的収支の部	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸付金、基金に係る支出及びそれに対応する財源など</li> </ul>
注 基礎的財政収支 記（プライマリ・バランス）	<ul style="list-style-type: none"> <li>町債収入を除いた歳入と、町債元利償還額を除いた歳出 バランスをはかるもの</li> </ul>

#### ④ 資金収支計算書の内訳

##### 平成25年度遠軽町普通会計資金収支計算書

(自平成25年4月1日  
至平成26年3月31日)

(単位:千円)

1 経常的収支の部	
人件費	2,409,990
物件費	2,177,002
社会保障給付	931,114
補助金等	1,507,172
支払利息	277,403
他会計等への事務費等充当財源繰出支出	1,212,976
その他支出	111,970
支出合計	8,627,627
地方税	2,092,670
地方交付税	8,280,927
国県補助金等	1,075,864
使用料・手数料	388,131
分担金・負担金・寄附金	94,783
諸収入	123,281
地方債発行額	637,600
基金取崩額	10,830
その他収入	488,944
収入合計	13,193,030
経常的収支額	4,565,403

2 公共資産整備収支の部	
公共資産整備支出	2,361,648
公共資産整備補助金等支出	702,689
他会計等への建設費充当財源繰出支出	0
支出合計	3,064,337
国県補助金等	851,362
地方債発行額	1,189,400
基金取崩額	0
その他収入	44,401
収入合計	2,085,163
公共資産整備収支額	△ 979,174

3 投資・財務的収支の部	
投資及び出資金	0
貸付金	19,770
基金積立額	1,532,175
定額運用基金への繰出支出	3,100
他会計等への公債費充当財源繰出支出	205,845
地方債償還額	2,032,784
長期未払金支払支出	0
支出合計	3,793,674
国県補助金等	0
貸付金回収額	25,592
基金取崩額	0
地方債発行額	0
公共資産等売却収入	16,419
その他収入	118,380
収入合計	160,391
投資・財務的収支額	△ 3,633,283

翌年度繰上充用金増減額	0
当年度歳計現金増減額	△ 47,054
期首歳計現金残高	310,598
期末歳計現金残高	263,544

※1 一時借入金に関する情報

- ① 資金収支計算書には一時借入金の増減は含まれていません。  
 ② 平成25年度における一時借入金の借入限度額は1,500,000千円です。  
 ③ 支払利息のうち、一時借入金利子は0千円です。

※2 基礎的財政収支(プライマリーバランス)に関する情報

収入総額	15,438,584
地方債発行額	△ 1,827,000
財政調整基金等取崩額	△ 0
支出総額	△ 15,377,638
地方債償還額	2,310,187
財政調整基金等積立額	909,972
基礎的財政収支	<u>1,454,105</u>

## 2 財務書類を活用した財務状況の分析

### (1) 財務書類を活用した分析

ここでは、財務書類から何がわかるのかということについて解説します。

#### ① 貸借対照表

- 3ページの貸借対照表を見ると、これまで遠軽町では、721億円の資産（資産合計）を形成してきましたが、そのうち489億円（純資産合計）については、これまでの世代の負担ですでに支払いが済んでおりますが、残りの232億円（負債合計）については、これからの世代の負担となり、今後の債務を返済していくこととなります。

また、これまでの世代の負担とこれからの世代の負担割合は、おおよそ7：3となっています。

保有資産 721億円（100%）	
これまでの世代の負担 489億円（67.8%）	これからの世代の負担 232億円（32.2%）

- 次に、町の有形固定資産を目的別に見ていくと、道路や河川などの生活インフラ・国土保全にかかるものが281億円（45.4%）で7分の3を占め、次いで学校や社会体育施設などの教育が171億円（27.7%）となっています。

（単位：億円、%）

区 分	価額	構成比率	区 分	価額	構成比率
生活インフラ・国土保全	281	45.4	産業振興	55	8.9
教 育	171	27.7	消 防	1	0.2
福 祉	19	3.1	総 務	57	9.2
環境衛生	34	5.5	合 計	618	100.0

#### ② 行政コスト計算書

- 6ページの行政コスト計算書を見ると、平成25年度の1年間で、町において、行政サービスを提供する上で123億円の費用（経常行政コスト）を費やしており、このうち6億円（経常収益）を行政サービスから便益を受ける者からの負担（使用料・手数料など）で賄っていますが、残りの117億円（純経常行政コスト）は、町税や地方交付税などで賄っている形となっています。

また、受益者負担の比率は、5.2%で、受益者と町税等との負担割合は、おおよそ1：20となっています。

経常行政コスト 123億円（100%）	
経常収益 6億円 (5.2%)	町税・地方交付税など 117億円（94.8%）

- 次に、町の行政コストを目的別に見ていくと、福祉にかかる経常コストが30億円（24.6%）で最も多く、次いで生活インフラ・国土保全22億円（17.6%）となっています。

（単位：億円、%）

区 分	経常コスト	構成比率	区 分	経常コスト	構成比率
生活インフラ・国土保全	22	17.6	総 務	15	12.4
教 育	18	14.4	議 会	1	1.0
福 祉	30	24.6	支払利息	3	2.3
環境衛生	14	11.2	回収不能見込計上額	0	0.0
産業振興	13	10.8	その他行政コスト	0	0.0
消 防	7	5.7	合 計	123	100.0

#### ③ 純資産変動計算書

- 8ページの純資産変動計算書を見ると、行政コストのうち受益者負担以外で賄われた部分が117億円（純経常行政コスト）があり、そのうち、21億円が地方税、83億円が地方交付税、19億円が補助金等の受入により賄われていることとなります。

#### ④ 資金収支計算書

- 10ページの資金収支計算書を見ると、経常的収支の部においては、46億円（経常的収支額）の収支余剰が生じていますが、公共資産整備収支の部においては、▲10億円（公共資産整備収支額）の収支不足、投資・財務的収支の部においては、▲36億円（投資・財務的収支額）の収支不足が生じています。
- 公共資産整備収支と投資・財務的収支の収支不足については、経常的収支余剰により大きくなっているため、不足額を歳計現金により補填しています。

経常的収支の部		補填	公共資産整備収支の部	
経常的収入 132億円	経常的支出 86億円 収支 46億円		公共資産整備収入 11億円 収支 ▲10億円	公共資産整備支出 21億円
		補填	投資・財務的収支の部	
			投資・財務的収入 2億円 収支 ▲36億円	投資・財務的支出 38億円

- 次に、注記2にある基礎的財政収支（プライマリーバランス）に関する情報について、基礎的財政収支とは、一般に町債発行額を除いた収入と、地方債償還額を除いた支出のバランスであり、数値がプラスであれば、現在の行政サービスにかかる費用が将来の世代に先送りすることなく、現在の税金などで賄われていることを示しています。町の25年度の基礎的収支は、15億円のプラスとなっています。

収入	町税等 136億円	町債発行額等 18億円
支出	一般施策等 121億円	地方債償還額等 32億円
		15億円

#### (2) 比率等を用いた分析

ここでは、財務書類の数値を活用した比率による分析を行っています。今後は、他市町村との比較を行うことや、年度ごとの推移を見ていくことにより、町の財政状況の特徴や課題の把握など、より深い財政分析が可能となります。

##### ① 歳入総額対資産比率

- 歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、形成されたストックである資産は何年分の歳入が充当されたかを見ることができます。

$$\underbrace{\frac{\text{資産合計}}{720\text{億}8,434\text{万円}}}_{\text{貸借対照表}} \div \underbrace{\frac{\text{（各部収入合計+期首歳計現金残高）}}{157\text{億}4,918\text{万円}}}_{\text{資金収支計算書}} = \boxed{4.6\text{年}}$$

##### ② 資産老朽化比率

- 土地以外の有形固定資産について、有形固定資産合計に対する減価償却累計額の割合を算定することにより、耐用年数に比して資産取得からどの程度経過しているかを見ることができます。

$$\underbrace{\frac{\text{減価償却累計額}}{673\text{億}178\text{万円}} \div \underbrace{\frac{\text{（有形固定資産-土地+減価償却累計額）}}{1,233\text{億}8,924\text{万円}}}_{\text{貸借対照表}}}_{\text{貸借対照表}} = \boxed{54.5\%}$$

### ③ 行政コスト対税収等比率

- 純経常行政コストに対する一般財源等の比率を算定することにより、行政サービスから受益者負担分を除いた純経常コストに対して、どれだけが当年度の負担で賄われているのかが見ることができます。

$$\underbrace{\frac{\text{純経常行政コスト}}{116\text{億}9,142\text{万円}}}_{\text{行政コスト計算書}} \div \underbrace{\frac{\text{（一般財源合計 + 補助金等受入）}}{123\text{億}1,112\text{万円}}}_{\text{純資産変動計算書}} = \boxed{95.0\%}$$

### ④ 行政コスト対公共資産比率

- 行政コストの公共資産に対する比率を算出することにより、資産を活用するためにどれだけのコストがかけられているか、あるいは、どれだけの資産でどれだけの行政サービスを提供しているかといった資産の効率的な活用状況を見ることができます。

$$\underbrace{\frac{\text{経常行政コスト}}{123\text{億}3,291\text{万円}}}_{\text{行政コスト計算書}} \div \underbrace{\frac{\text{公共資産合計}}{617\text{億}9,931\text{万円}}}_{\text{貸借対照表}} = \boxed{20.0\%}$$

### ⑤ 町債の償還可能年数

- 経常的に確保できる資金により町債を返済する場合、何年で返済できるかを表す比率で、地方債の多寡や債務償還能力を測る比率です。

$$\underbrace{\frac{\text{（地方債 + 翌年度償還予定地方債）}}{201\text{億}5,182\text{万円}}}_{\text{貸借対照表}} \div \underbrace{\frac{\text{経常的収支額（地方債、基金を除く）}}{39\text{億}1,697\text{万円}}}_{\text{資金収支計算書}} = \boxed{5.1\text{年}}$$

## (3) 町民1人当たりの状況

### ① 町民1人当たりの貸借対照表

- 5ページの貸借対照表を平成26年3月末の人口（21,522人）で割ると次のようになり、町民1人当たりの資産は3,349千円、負債は1,078千円、純資産は2,272千円となります。

(単位：千円/人)

資産の部		金額	負債の部		金額
1	公共資産	2,871	1	固定負債	979
	(1) 有形固定資産	2,869		(1) 地方債	843
	(2) 売却可能資産	2		(2) 退職手当引当金	134
				(3) その他	2
2	投資等	258	2	流動負債	99
	(1) 投資及び出資金	27		(1) 翌年度償還予定地方債	93
	(2) 貸付金	2		(2) その他	6
	(3) 基金等	229		負債合計	1,078
3	流動資産	220		純資産の部	金額
	(1) 現金預金	218		純資産合計	2,271
	(2) 未収金	2			
	資産合計	3,349		負債及び純資産合計	3,349

## ② 町民1人当たりの行政コスト計算書

- 9ページの行政コスト計算書を町民人口で割ると次のようになり、町民1人当たりの経常行政コストは573千円、経常収益30千円、純経常行政コスト543千円となります。

(単位：千円/人・%)

区 分	金 額	(構成比率)
経常行政コスト	573	100.0
1 人にかかるコスト	107	18.7
(1) 人件費	93	16.2
(2) その他	14	2.5
2 物にかかるコスト	241	42.0
(1) 物件費	101	17.6
(2) 維持補修費	5	0.9
(3) 減価償却費	135	23.5
3 移転支的的なコスト	212	37.0
(1) 社会保障給付	43	7.5
(2) その他	169	31.2
4 その他のコスト	13	2.3
(1) 支払利息	13	2.3
(2) その他	0	0.0
経常収益	30	
1 使用料・手数料	23	
2 分担金・負担金・寄附金	7	
純経常行政コスト(経常行政コスト－経常収益)	543	